

バロックとその周辺の音楽

2021年11月6日(土)

13:00 開演 (12:30 開場)

シルバーマウンテン B1F

～新型コロナウイルス感染症拡大防止のお願い～

- ・マスク着用の徹底、こまめな手指消毒・手洗い・咳エチケットの励行にご協力くださいますようお願い申し上げます。
- ・出演者とのご面会は楽屋口、ロビーを含め全面でご遠慮いただいております。尚、出演者への花束・プレゼントもお控えくださいますようお願い申し上げます。
- ・休憩時、終演後はスタッフが扉を開けるまでお待ちいただき、空いているドアから混雑を避けて入退場をお願い申し上げます。
- ・演奏者への声援はご遠慮いただき、拍手のみとしていただきますようお願い申し上げます。
- ・客席やロビーでのご飲食はお控えくださいますようお願い申し上げます。
- ・大声や対面での会話はお控えくださいますようお願い申し上げます。
- ・万一、集団感染の発生が明らかになった際は、保健所に入場者の情報を提供する場合がございます。



[第一部]

P.F.ベデッカー / ファゴットと通奏低音のための「ラ・モニカ」によるソナタ

Philipp Friedrich Böddecker / Sonata sopra la Monica, Fagotte solo

Fg. 平川 眞鈴(学3) Fg. 渡邊 陽南(学2) Cemb. 西川 真衣(学2・Pf.)

C.P.E.バッハ / ソナタト短調 H542.5より

Carl Philipp Emanuel Bach / Sonata in G minor H542.5 ~

Fl. 小西 健文(学1・音デ) Ob. 岸原 伶奈(学1) Cemb. 西川 真衣(学2・Pf.)

F.ジェミニアーニ / 合奏協奏曲二短調H.143「ラ・フォルリア」

Francesco Geminiani / Concerto Grosso in D minor H.143 "La Folia"

Vn. 筱崎 愛(学4) Vn. 山下 智史(学4) Vn. 山本 里真(学4) Vn. 頼近 友莉奈(学3)
Fg. 及川 夏海(学2) Fg. 渡邊 陽南(学2) Cemb. 西川 真衣(学2・Pf.)

～ 休憩 ～



[第二部]

J.デュフリ / ラ・ドウ・ブロンブル、ムニユエ
Jacques Duphy / La De Belombre, Menuets
Cemb. 大久保 里奈(学4・Pf.)

G.F.ヘンデル / オラトリオ『メサイア』より「大いに喜べ、シオンの娘よ」
Georg Friedrich Händel / 《Messiah》 <Rejoice greatly, O daughter of Sion>
Vo. 西村 理菜(院1) Cemb. 森合 爽子(院2・pf.)

G.F.ヘンデル / オペラ『タメルラーノ』より「天地は怒りで身を固めよ」
Georg Friedrich Händel / 《Tamerlano》 <Ciel e terra armi di sdegno>
Vo. 石津 秀悟(学2) Cemb. 吉川 麻衣(学3・Pf.)

G.F.ヘンデル / オペラ『セルセ』より 「樹木の陰で」
Georg Friedrich Händel / 《Serse》 <Ombra mai fu>
Vo. 石津 秀悟(学2) Cemb. 吉川 麻衣(学3・Pf.)

G.フィンガー / オーボエとトランペットと通奏低音のためのソナタ
Godfrey Finger / Sonata for Oboe, Trumpet and Continuo in C major
Trp. 渡辺寛子(学3) Fl. 小西 健文(学1・音デ) Ob. 岸原 伶奈(学1)
Fg. 上治 唯奏(学3) Cemb. 小嶋 みのり(学3・Pf.)

～ 休憩 ～



[第三部]

C.W.グルック / オペラ『オルフェオとエウリディーチェ』より 「エウリディーチェを失って」
Cristoph Willibald Gluck / 《*Orfeo ed Euridice*》<*Che farò senza Euridice?*>
Vo. 上原 愛美(学4) Cemb. 吉川 麻衣(学3・Pf.)

G.F.ヘンデル / オペラ『リナルド』より 「私を泣かせてください」
Georg Friedrich Händel / 《*Rinaldo*》<*Lascia ch'io pianga*>
Vo. 上原 愛美(学4) Cemb. 吉川 麻衣(学3・Pf.)

G.ジュリアーノ / マンドリンと弦楽のためのシンフォニア
Giuseppe Giuliani / *Sinfonia per Mandolino con piu instrumenti*
Mn. 島田 龍輔(学2) Vn. 筱崎 愛(学4) Vn. 山本 里真(学4)
Fg. 塩谷 花笑(学3) Cemb. 柴崎 奎吾(学3・Pf.)

A.L. ヴィヴァルディ / 2本のトランペットのための協奏曲ハ長調RV.537
Antonio Lucio Vivaldi / *Concerto for 2 Trumpets in C major RV.537*
Trp. 神山 柁紀(学2) Trp. 桃井 智穂(学2) Vn. 山下 智史(学4) Vn. 頼近 友莉奈(学3)
Va. 山本 里真(学4) Fg. 福原 佑紀(学4) Cemb. 柴崎 奎吾(学3・Pf.)



P.F.ベデッカー／
ファゴットと通奏低音のための
「ラ・モニカ」によるソナタ

Philipp Friedrich Bodecker／
Sonata sopra la Monica, Fagotte solo

P.F.ベデッカー(1607-1683)は、ドイツの初期バロックの作曲家、器楽奏者であったといえます。この曲はファゴット独奏の中では最古の部類に入ります。厳密にはドルツィアンという、現代の私達が使うヘッケル式のファゴットの祖先にあたる楽器のために書かれました。

冒頭の主題は当時大変流行していたという、「une jeune fillette(若い娘)」というフランスの古い民謡が元となっています。イタリアではそれがラ・モニカという名前で浸透しました。その旋律が、形を変えて何度も登場する変奏曲という構成で書かれており、その変奏は進むごとに超絶技巧を用いるもので、当時相当な名手がいたと思わされます。それはドルツィアンのソロ楽器としての可能性を大いに広げたという意味でもあります。(平川 眞鈴)

C.P.E.バッハ／ソナタ短調 H542.5より
Carl Philipp Emanuel Bach／*Sonata in G minor H542.5*～

日本の音楽教育では「音楽の父」と呼ばれているヨハン・ゼバスティアン・バッハ(1685~1750)の息子の一人であるカール・フィリップ・エマニュエル・バッハ(1714~1788)はドイツの作曲家であり、のちの古典派音楽の基礎を築いた人物です。アドルフ・フォン・メンツェル作画の「無憂宮におけるフルート奏者」では、フルートを演奏しているフリードリヒ大王のかたわらでチェンバロを演奏しているのがカール・フィリップ・エマニュエル・バッハとしてとても有名です。

このソナタはバッハ全集の番号がついてはいませんが、現在では大バッハの作品ではないだろうと言われており、息子カール・フィリップ・エマニュエル・バッハの作風を思わせますが、「この時期の彼の作風とはちがう」という意見もあり、はっきりしてはいません。

チェンバロ独奏の速いパッセージから始まり絶え間なく刻まれる伴奏、その上で伸びやかとした旋律は機敏に流麗な楽想を歌っています。

フルートで演奏されることの多いこの曲を今回はオーボエも交えて演奏致します。フルート・オーボエ・チェンバロの音色をお楽しみください。

(岸原 伶奈)

F.ジェミニアーニ／
合奏協奏曲二短調H.143「ラ・フォリア」

Francesco Geminiani／
Concerto Grosso in D minor H.143 "La Folia"

フランチェスコ・ジェミニアーニ(1687-1762)はイタリア後期バロック音楽の作曲家であり、ヴァイオリニストです。

「フォリア」とは三拍子系のイベリア半島が起源の舞曲で、快活で活発な踊りです。また「狂気」「常軌を逸した」という意味を持つことから賑やかでけたたましい様子であったことが伺えます。

ジェミニアーニの恩師であるアルカンジェロ・コレッリの作品5番(1700年)の12曲目を元に合奏協奏曲に編曲した作品をヴァイオリン4本、ファゴット2本、チェンバロで演奏します。通奏低音の豊かな響きと、ヴァイオリン弾きであったジェミニアーニならではのテクニックをお楽しみください。(頼近 友莉奈)

J.デュフリ／ラ・ドウ・ブロンブル、ムニュエ
Jacques Duphy／*La De Belombre, Menuets*

ジャック・デュフリ(1715-1789)はバロック後期に活躍したフランスの作曲家、クラヴサン奏者。全4巻からなるクラヴサン曲集のうち本日は第3巻から二曲演奏します。

La de Belombre(仏:ラ・ドウ・ブロンブル)とは貴族、パトロンの名前を題した作品であると考えられます。当時、このように人名を作品に冠して作曲する手法は大変好まれていました。

Menuets(仏:ムニュエ)はメヌエットのことでフランス発祥の舞曲の一つ。“menu”は仏語で“小さい”を意味することから小さなステップで踊られます。同じ3拍子の舞曲であるValse(仏:ヴァルス)と比較すると、より洗練され優雅な印象です。性格の違う二曲を通して、18世紀フランスの華やかな魅力をお楽しみいただきしたいと思います。

(大久保 里奈)



G.F.ヘンデル／オラトリオ『メサイア』より
「大いに喜べ、シオンの娘よ」
Georg Friedrich Händel /
《Messiah》 <Rejoice greatly, O daughter of Sion>

「大いに喜べ、シオンの娘よ (Rejoice greatly)」は、1741年にヘンデルが作曲した唯一のオラトリオ『メサイア(Messiah)』の中の一曲です。『メサイア(Messiah)』は1742年4月13日にアイルランドのダブリンで初演されました。構成は3部に分けられており、キリスト誕生の予言と出生から受難と復活までを描いています。今回演奏するソプラノのアリアでは救世主誕生の予言に喜ぶエルサレムの民が描かれています。エルサレムの町が女性名詞であるため娘に例えられています。 「シオンの娘」とはエルサレムに住むすべての民のことを指しています。(西村 理菜)

G.F.ヘンデル／オペラ『タメルラーノ』より
「天地は怒りで身を固めよ」
Georg Friedrich Händel /
《Tamerlano》 <Ciel e terra armi di sdegno>

1402年、オスマン朝トルコの王バヤゼットは、タタールの王タメルラーノに、美貌の娘アステリアともども捕らわれます。しかし、アステリアに一目ぼれをしたタメルラーノは、バヤゼットに自由と命を引き換えにアステリアとの結婚を許すよう迫ります。それを受けたバヤゼットは、断固として受け入れられず激昂し、アステリアの意志も自分と同じであると吐き捨てます。(石津 秀悟)

G.フィンガー /
オーボエとトランペットと通奏低音のためのソナタ
Godfrey Finger /
Sonata for Oboe, Trumpet and Continuo in C major

ゴットフリート・フィンガー (またはゴットフリー・フィンガー) は、1660年頃チェコのオロモウツで生まれたドイツの作曲家です。オロモウツの領主司教の宮廷楽団で音楽を学びました。1682年にミュンヘンに短期間滞在した後、イギリスに渡り、1685年に王室礼拝楽団のメンバーとなりました。1688年に国王ジェームズ2世が亡命した時、フィンガーはロンドンに残り、フリーランスの音楽家として活躍しました。1702年にベルリンの宮廷楽団のメンバーになると、1708年にはインスブルックの楽師長に就任し、1717年から1723年までゴータの宮廷学長を務めました。その後、1730年にマンハイムで亡くなりました。

彼の作品にはオペラや様々な楽器のために書かれたソナタがあり、作風はモラヴィアの作曲家パヴェル・ヴェイヴァノフスキーとボヘミアの作曲家ハインリヒ・イグナツ・フランツ・フォン・ビーバーの影響を受けた作品が多く見られます。

この曲は4楽章で構成され、第1楽章Moderato、第2楽章Adagio、第3楽章Allegro、第4楽章Grave・Allegroとなっています。豊かで穏やかな響きやしっとりとした音色、軽快なリズムなど、楽章ごとの表情の違いや各楽器の個性が楽しめる楽曲です。オーボエ、トランペット、ヴァイオリン、通奏低音で演奏される曲ですが、本日はオーボエ、フルート、トランペット、ファゴット、チェンバロで演奏致します。それぞれの楽器の様々な表情や個性とチェンバロとのアンサンブルをお楽しみください。(渡辺 寛子)

G.F.ヘンデル／オペラ『セルセ』より
「樹木の陰で」
Georg Friedrich Händel /
《Serse》 <Ombra mai fu>

第一幕の冒頭でペルシャ王セルセが王宮の庭園にあるプラタナスの木陰を讃えて歌う、高貴で愛情に溢れたアリオゾ。
伸びやかな明るい旋律線と曲の広大な広がり、胸中の熱いものが、すがすがしく飛翔し、展開していきます。(石津 秀悟)

C.W.グルック /
オペラ『オルフェオとエウリディーチェ』より
「エウリディーチェを失って」
Cristoph Willibald Gluck /
《Orfeo ed Euridice》 <Che farà senza Euridice?>

オペラ『オルフェオとエウリディーチェ』は1762年、ウィーンにて初演された、グルックによる3幕もののオペラです。ギリシャ神話のオルフェウスとエウリュディケの物語がベースとなっています。(次頁へ)



(つづき)

詩人で音楽家のオルフェオにはエウリディーチェという妻がいたが、毒蛇に噛まれて死んでしまいます。亡き妻への思いが高まるオルフェオに愛の神アモールは同情し、妻を連れ戻すために冥府へ行くことを許可します。さらにアモールは「この世に連れ戻すまでは彼女の顔を見てはいけないし、その理由も告げてはならない。さもなくば永遠に会えなくなる。」と伝えます。オルフェオは妻と手を取り合って地上へ向かいますが、夫が自分を見てくれないことに不安を感じるエウリディーチェを前に我慢が出来なくなったオルフェオは妻を見てしまいます。息絶える妻を前に嘆き悲しみ歌われるアリアが、この「エウリディーチェを失って」です。(上原 愛美)

G.F.ヘンデル / オペラ『リナルド』より
「私を泣かせてください」

Georg Friedrich Händel /
《Rinaldo》<Lascia ch'io pianga>

オペラ『リナルド』は1711年、ロンドンで初演されたヘンデルによる最初のオペラで、初演は大成功を収めました。元となるお話はトルクアート・タッソによる、11世紀、イスラム教徒の支配下にあったエルサレムを奪回してヨーロッパを熱狂させた「第一次十字軍」に基づいた叙事詩『解放されたエルサレム』です。

アルミレーナは十字軍の英雄リナルドの婚約者であり、彼が遠征から戻ったら結婚を誓っています。しかしアルミレーナは幸せのさなか、敵国の魔女アルミーダに囚われてしまいます。アルミレーナの美しさに敵国の王アルガンテが惹かれて迫る中、己の身を嘆き歌うアリアが、この「私を泣かせてください」です。(上原 愛美)

G.ジュリアーノ /
マンドリンと弦楽のためのシンフォニア

Giuseppe Giuliani /
Sinfonia per Mandolino con piu instrumenti

この作品はスウェーデンのギモという街にあるコレクションの中から発見された作品です。

作曲家であるジュゼッペ・ジュリアーノは不明な点の多い人物です。ナポリで生まれ、18世紀中頃に活動し、マンドリンのための作品を複数残しています。

フランスで当時マンドリン教師として活動していたPietro Denisは自身の教則本の中で、ジュリアーノのことをナポリで1番良いマンドリニストとして言及しています。

また、この作品からも急緩急の楽章形式やナポリ型マンドリンに特徴的な和音の使用、音形が数多く含まれており、ナポリ楽派やマンドリンに対する深い関心があった人物であることを窺わせます。マンドリンのあまり知られていない一面、バロック期の作品をこの機会に演奏し、みなさまにご覧いただけることを大変嬉しく思っています。(島田 龍輔)

A.L.ヴィヴァルディ /

2本のトランペットのための協奏曲 ハ長調RV.537
Antonio Lucio Vivaldi / Concerto for 2 Trumpets in C major RV.537

バロック時代後期に活躍したイタリアの作曲家、アントニオ・ヴィヴァルディ(1678-1741)は、オペラや協奏曲、声楽作品など多くのジャンルで800曲以上の作曲をしました。この作品は、正確な作曲年は不明ですが、恐らく1720年ごろに作曲されたのではないかとされています。当時のトランペットは、現代のものとは異なり、バルブのついていないナチュラルトランペット(別名：バロックトランペット)で演奏されていました。この楽器は、自然倍音に含まれる音しか出せず、それは音を穴の空いていない、ほぼパイプとも言えるもので、口だけで音を変えて演奏していました。その技術は、難易度が非常に高いものでした。しかし時代が進むにつれて、ナチュラルトランペットに穴を開けて音程を取りやすくしたり、19世紀になるとバルブが発明され、更に高音域の演奏を容易にするため、ピッコロトランペットが開発されました。そして今日ではこの作品もピッコロトランペットで演奏されるようになりました。本日もこの楽器で演奏させていただきます。

編成は、トランペット2本、弦楽器、通奏低音で成り立ち、第1、第3楽章ではトランペット2本とその他のセクションが掛け合いをしながら曲が進んでいきます。この時代の協奏曲は急-緩-急、1、3楽章は明るく華やかな曲想、2楽章は穏やかであったり暗めな曲想というふうに構成されており、この曲の「急」ではメロディの掛け合いが主なモチーフで成り立ち、アンサンブル全体での音楽の盛り上がりを感じられます。トランペット同士でのアンサンブルも躍動感があり、大変華やかです。第2楽章の「緩」では、弦楽器、通奏低音で演奏され、カデンツァ風のソロのメロディと、メロディに沿ったハーモニーの移り変わりや響きの変化が魅力的です。楽しんでお聞きください。

(桃井 智穂)



～メンバー～

声楽専攻

西村 理菜(院1) 上原 愛美(学4) 石津 秀悟(学2)

トランペット専攻

渡辺 寛子(学3) 神山 柁紀(学2) 桃井 智穂(学2)

オーボエ専攻

岸原 伶奈(学1)

ファゴット専攻

福原 佑紀(学4) 塩谷 花笑(学3) 上治 唯奏(学3)
平川 眞鈴(学3) 及川 夏海(学2) 渡邊 陽南(学2)

ヴァイオリン専攻

筱崎 愛 (学4) 山下 智史(学4) 山本 里真(学4) 頼近友莉奈(学3)

マンドリン専攻

島田 龍輔(学2)

ピアノ専攻(チェンバロ演奏)

森合 爽子(院2) 大久保 里奈(学4) 小嶋 みのり(学3)
柴崎 奎吾(学3) 吉川 麻衣(学3) 西川 真衣(学2)

音響デザイン専攻(フルート演奏)

小西 健文(学1)

本学指導教員

岡田 龍之介 金井 隆子 塩田 美奈子 須永 尚子
高田 正人 福島 康晴 上蘭 未佳

司会

福島 康晴

企画

上蘭 未佳

運営責任者

柳澤 涼子

アカデミックコーディネーター

大島 健太郎



洗足学園音楽大学

SENZOKU GAKUEN COLLEGE of MUSIC